

DULL-COLORED POP vol.20

福島三部作 一挙上演

第一部『1961年：夜に昇る太陽』

第二部『1986年：メビウスの輪』

第三部『2011年：語られたがる言葉たち』



作・演出：谷賢一(DULL-COLORED POP)

出演：

【第一部】

東谷英人、井上裕朗、内田倭史（劇団スポーツ）、大内彩加、大原研二、塚越健一、
宮地洸成（マチルダアパルトマン）、百花亜希（以上 DULL-COLORED POP）、阿岐之将一、倉橋愛実

【第二部】

宮地洸成（マチルダアパルトマン）、百花亜希（以上 DULL-COLORED POP）、
岸田研二、木下祐子、椎名一浩、藤川修二（青☆組）、古河耕史

【第三部】

東谷英人、井上裕朗、大原研二、佐藤千夏、ホリユウキ（以上 DULL-COLORED POP）、
有田あん（劇団鹿殺し）、柴田美波（文学座）、都築香弥子、春名風花、平吹敦史、森 準人、山本 亘、
渡邊りょう

東京公演

第一部・二部・三部

2019年8月8日-8月28日

8月

8日(木) 19時～第二部
9日(金) 19時～第二部☆
10日(土) 13時～第二部 18時～第二部
11日(日) 13時～第二部 18時～第二部
12日(月)・13日(火) 休演日
14日(水) 19時～第三部
15日(木) 14時～第三部・19時～第三部
16日(金) 19時～第三部☆
17日(土) 13時～第三部 18時～第三部
18日(日) 13時～第三部 18時～第三部
19日(月) -22日(水) 休演日
23日(金) 13時～第一部 16時～第二部 19時～第三部
24日(土) 13時～第一部 16時～第二部 19時～第三部
25日(日) 13時～第一部 16時～第二部 19時～第三部☆
26日(月) 13時～第一部 16時～第二部 19時～第三部
27日(火) 13時～第一部 16時～第二部 19時～第三部
28日(水) 11時～第一部 13時半～第二部 16時～第三部

☆終演後、トークディスカッションあり。

受付は開演45分前、開場は開演30分前。

会場：東京芸術劇場 シアターイースト

〒171-0021 東京都豊島区西池袋1丁目8-1 <https://www.geigeki.jp/>

JR・東京メトロ・東武東上線・西武池袋線 池袋駅西口より徒歩2分。駅地下通路2b出口と直結。

一般発売日：6月8日(土) 午前10時

チケット取り扱い：チケットぴあ <https://t.pia.jp/> (Pコード494-475)

東京芸術劇場ボックスオフィス <https://www.geigeki.jp/ti/>

チケット料金：指定席 一般：4200円 学生：3500円 高校生：2000円 (チケットぴあでのみ取り扱い)

当日券：4500円

通しチケット：10,000円 (各日100枚限定) ※1部から3部まで同じお席となります。

※学生チケットをご購入の方は、当日受付にて座席指定チケットをお引き換えください。

※未就学児入場不可。

※開演いたしますと、ご指定のお席にご案内できない場合がございます。

※8月28日は通し券のみの販売となります。

問い合わせ先：info@dcpop.org 050-5579-6089 (DULL-COLORED POP)

大阪公演

8月31日(土) - 9月2日(月)

8月31日(土) 13時～第一部 16時～第二部 19時～第三部

9月1日(日) 13時～第一部 16時～第二部 19時～第三部☆

2日(月) 10時～第一部 12時半～第二部 15時～第三部

☆終演後、トークディスカッションあり。

受付は開演 45 分前、開場は開演 30 分前。

会場：in→dependent theatre 2nd

〒556-0005 大阪府大阪市浪速区日本橋 4 丁目 7-22 インディペンデントシアター2nd

●Osaka Metro・堺筋線 恵美須町駅 1A 出口 右手(北)5 分

<http://itheatre.jp/2nd.html>

チケット：整理番号付自由席

チケット料金：一般：3800 円 学生：3300 円 通しチケット：9,800 円(各日 80 枚限定) 当日券：4300 円

※未就学児入場不可。

※9月2日は通し券のみの販売となります。

チケット取り扱い：劇団 HP、チケットぴあ (P コード 494-476)

一般発売日：6月8日(土) 午前 10 時

福島公演

第二部『1986年：メビウスの輪』

7月6日(土) 18時30分、7日(日) 14時

第三部『2011年：語られたがる言葉たち』

9月7日(土) 18時30分、8日(日) 14時

会場：いわき芸術文化交流館アリオス 小劇場

料金：全席自由 3,000 円 高校生以下 1,000 円 第二部&第三部セット券：4,500 円 高校生以下 1,500 円

※未就学児入場不可

一般発売日：5月11日(土)

スタッフ

美術：土岐研一 照明：松本大介 音響：佐藤こうじ 衣裳：友好まり子 舞台監督：竹井祐樹

演出助手：美波利奈

宣伝美術：ウザワリカ 制作助手：柿木初美・徳永のぞみ・竹内桃子(大阪公演) 制作：小野塚央

【東京公演】

助成：アーツカウンシル東京(公益財団法人東京都歴史文化財団)、芸術文化振興基金、セゾン文化財団

【大阪公演】芸術文化振興基金

【福島公演】主催：いわき芸術文化交流館アリオス

【東京・大阪公演】主催：合同会社 DULL-COLORED POP

【あらすじ】

□第一部『1961年：夜に昇る太陽』

1961年。東京の大学に通う青年・<穂積 孝>は故郷である福島県双葉町へ帰ろうとしていた。「もう町へは帰らない」と告げるために。北へ向かう汽車の中で孝は謎の「先生」と出会う。「日本はこれからどんどん良くなる」、そう語る先生の言葉に孝は共感するが、家族は誰も孝の考えを理解してくれない。そんな中、彼ら一家の知らぬ背景で、町には大きなうねりが押し寄せていた……。

福島県双葉町の住民たちが原発誘致を決定するまでの数日間を、史実に基づき圧倒的なディテールで描き出したシリーズ第一弾。

□第二部『1986年：メビウスの輪』

福島第一原発が建設・稼働し、15年が経過した1985年の双葉町。公金の不正支出が問題となり、20年以上に渡って町長を務めてきた田中が電撃辞任した。かつて原発反対派のリーダーとして活動したために議席を失った<穂積忠>（孝の弟）は、政界から引退しひっそりと暮らしていたが、ある晩、彼の下に2人の男が現れ、説得を始める。「町長選挙に出馬してくれないか、ただし『原発賛成派』として……」。そして1986年、チェルノブイリでは人類未曾有の原発事故が起きようとしていた。

実在した町長・岩本忠夫氏の人生に取材し、原発立地自治体の抱える苦悩と歪んだ欲望を克明に描き出すシリーズ第二弾。

□第三部『2011年：語られたがる言葉たち』

2011年3月11日、東北全体を襲った震災は巨大津波を引き起こし、福島原発をメルトダウンに追い込んだ。その年末、<孝>と<忠>の弟にあたる<穂積 真>は、地元テレビ局の報道局長として特番製作を指揮していたが、各市町村ごとに全く異なる震災の悲鳴が舞い込み続け、現場には混乱が生じていた。真実を伝えることがマスコミの使命か？ ならば今、伝えるべき真実とは一体何か？ 被災者の数だけ存在する「真実」を前に、特番スタッフの間で意見が衝突する。そして真は、ある重大な決断を下す……。

2年半に渡る取材の中で聞き取った数多の「語られたがる言葉たち」を紡ぎ合わせ、震災の真実を問うシリーズ第三弾。

【谷賢一プロフィール】

作家・演出家・翻訳家。1982年、福島県生まれ、千葉県柏市育ち。DULL-COLORED POP 主宰。Theatre des Annales 代表。明治大学演劇学専攻、ならびにイギリス・University of Kent at Canterbury, Theatre and Drama Study にて演劇学を学んだ後、劇団を旗揚げ。「斬新な手法と古典的な素養の幸せな合体」（永井愛）と評された、ポップでロックで文学的な創作スタイルで、脚本・演出ともに幅広く評価を受けている。2013年には『最後の精神分析』の翻訳・演出を手掛け、第6回小田島雄志翻訳戯曲賞、ならびに文化庁芸術祭優秀賞を受賞。また近年では海外演出家とのコラボレーション作品も多く手がけ、シルヴィウ・プルカレーテ演出『リチャード3世』（東京芸術劇場プレイハウス）、フィリップ・デュクフレ演出『わたしは真悟』（KAATホール／新国立劇場 中劇場）、シディ・ラルビ・シェルカウイ演出『PLUTO』（シアターコクーン）、アンドリュウ・ゴールドバーグ演出『マクベス』（PARCO劇場）、デヴィッド・ルヴォー演出『ETERNAL CHIKAMATSU』（梅田芸術劇場／シアターコクーン）などに、それぞれ脚本や演出補などで参加している。2016年、セゾン文化財団ジュニア・フェローに選出。また同年より新国立劇場・演劇研修所にて講師を務める。

なぜ福島は"Fukushima"になってしまったのか？ 原発誘致の1960年代から震災の2010年代に至る50年の歴史を、3世代・3つの家族のドラマを通じて3部作構想で描き出す、一大演劇プロジェクトです。

▼このプロジェクトで実現したいこと

福島県と原発の歴史を3部作構想で描く演劇プロジェクトです。3世代・3つの家族を通して、福島と原発の政治・経済・人間のドラマを描きます。

まず2年間かけて書籍・人・現地から徹底的に取材・執筆した後、劇場を1ヶ月借り切って3部作連続上演・1万人の観客動員を目指します。3部作はそれぞれが独立して完結しており、1本だけ見ても楽しめるものですが、3作続けて観ることで大きな歴史が浮かび上がってくる仕掛けです。

そして福島の歴史と現実に対して正確に、しかし演劇として面白く書くことで、あの人類史上未曾有の大人災を作品として残すことを目指します。

▼このプロジェクトをやろうと思った理由

私の母は福島の生まれで、父は原発の孫請けで働く技術者でした。言わば原発事故で故郷を奪われた側と原発で食べていた側、どちらの血も受け継いでいるわけで、何故あのような大人災が起きてしまったのか、ずっと考え続けていました。平たく言えば、「一体誰が悪かったのか」？

しかしそこには一人の、あるいは一つの悪があったわけじゃなく、むしろたくさんの夢や善意、愛が複雑に絡み合い、安全神話と隠蔽体質が生み出されていく複雑怪奇な人間たちのドラマが見えてきました。事故原因を究明するのが科学者の仕事であり、再発防止と復興を考えるのが政治家の仕事ならば、人々の心を描き出すことが劇作家の仕事です。小さな3つの家族の心を描くことで、大きな絵を浮かび上がらせていきたい。

そしてもう一つ。私は職業的に演劇の作家・演出家をしていますから、普段は1ヶ月から2ヶ月の納期で執筆や演出を仕上げています。しかしそれでは福島を描くにはとても足りない。腰を据えてじっくりと取材し、持てる技術と精神力のすべてを注ぎ込んで取り組みたいと考えた結果がこのプロジェクトです。